

三原市議会議員

まさとき

とくしげ政時

活動報告

令和2年9月議会号(第17号)



三原を元気に！
次世代への責任と実行！



未だに世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるい続けておりますが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。市議会議員に当選以降、一貫して本市の子どもたちの学びの環境の向上に努めてまいりましたが、国によるGIGAスクール構想など、学びの環境は大きく変化しようとしています。そこで今議会では教育一本に絞り、8月に就任された岡田吉弘新市長と4月に就任された計田春樹教育長に質問いたしましたので、その概要をご紹介します。

とくしげ政時後援会〒723-0064 三原市西宮一丁目15番7号電話番号：0848-62-5804 (ファックス兼)



9月8日に召集された定例会の冒頭、岡田吉弘市長は所信表明の中で、次の5つを重点項目として掲げられましたので、

所信表明について質問しました。

- ① 三原を子育て支援・教育の先進地域へとしていく
 - ② 暮らしに安心感をもたらす
 - ③ 地域経済の活性化
 - ④ 新たな三原市に向けた挑戦
 - ⑤ 市民とともに進める地域の防災対策
- なお、原稿用紙15枚近くになる岡田市長の所信表明については、スペースに限りがありますので、後ほど紹介する広報みはら10月号や、インターネットで公開されている映像・文面に譲ります。

問 「三原を誇れるような施策」とは
答 子育てするには、何より安心感が必要と考えている。



中でも、出産や小児医療に関わる医療体制を維持していくこと、また子育てに関する様々な課題や身近な心配にも丁寧に対応できる相談体制を構築すること、子育てを後押しし、楽しみながら子育てができる保育サービスなどの支援策を充実させていくことが重要と考えている。

三原で子育てしてよかった、安心して子育てができたと子育て世代に感じていただけて初めて、子どもや親が誇れる三原になれると思っっている。

こうした取組を、市民や議会の皆さまから様々なアイデアをいただきながら進めたいと考える。

問 「教育が三原市の強みと言われる取組み」とは
答 多様な個性を持つ子どもたち一人一人に合わせた、

用語解説(文部科学省ホームページより)

ICT

Information and Communication Technology

の略で、コンピュータやインターネット等の情報通信技術のこと

アカウント

利用者認識のための記号や番号のこと
クラウド



様々な形で機関内に設置したサーバ等のシステムに蓄積している情報をインターネット回線を利用して、外部のデータセンターに集約して保存すること

GIGAスクール構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する

これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

より分かりやすく、より理解しやすい、様々な学びの場を提供することで、全ての児童・生徒が学ぶ力、たくましく生き貢献できる力を伸ばせる教育を行うことが肝腎と考える。

そのため、特に重点を置いて取組を進めていくのが、児童・生徒が持っている力をこれまで以上に引き出す道具立てとして、教育におけるICT技術の活用のためアカウント、クラウド、端末等の整備を加速する。

GIGAスクール構想に対応した児童・生徒用の学習者用情報端末を12月下旬には全校に配備し、1月下旬以降、高速校内LANの環境が整った学校から順次活用を開始できるように、調整を図りつつ進める。整備を進めているICTを活用した教育環境は、昨年度中に全ての小学校に整備したプログラミング教材を含め、児童・生徒のプログラミング的思考を育むことや、プログラミング教育を進めることにも役立つと考える。

10月中旬以降、日常的に端末に触れることで習熟度を高めることが可能となるよう、教員への端末配布を開始するとともに、端末の操作を含めた研修を全ての小・中学校で行い、学校での体制整備を図る。今後、教育委員会と連携を図りながら、教育先進地域へ向けた環境整備を進める。



所信表明にあった「三原を誇れるような施策」と「教育が三原市の強みと言われたい」という取組み」についての質問は以上です。

前ページの「用語説明」でも紹介したように、文部科学省が昨年12月に打ち出したGIGAスクール構想に関連する用語は、「GIGA」自体が「Global and Innovation Gateway for All」と表記される英単語の頭文字を取ったものであることから分かるように、私のような世代には横文字や片仮名だらけでとっつきにくいものですが、三原で学ぶ子どもたちのことを考えれば、そうは言っていられません。岡田市長には今の姿勢を貫かれ、本市の子どもたちのため、教育委員会としっかり連携を取りながら、構想を着実に進めていただきたいと思います。



図1. 広報みはら10月号



今議会直前の9月5日、中国新聞に「三原の本郷小で給食みそ汁に金属片 点検せず翌日も提供 市教委や学校 後手の対応批判の声」と題した記事(図2)が掲載されました。

9月1日に発生した本件については、保護者の皆さまへの一斉連絡が3日後の4日にずれ込む失態も重なったため、「すぐに通知があれば、注意喚起ができたのに」などの怒りの声が上がっています。

同校では今年の2月中旬にも、給食の麦御飯から長さ約5ミリの金属片が見つかりましたし、7日には東部共同調理場で前処理中の給食用のネギから、長さ約12センチの針金状の金属片が見つかったこともあり、また、子どもたちに提供される給食の安全を守るための質問を行いました。

問 担当部署から、本件事案への対応について説明を答へて。冒頭に、西部共同調理場において、今年2月に続いて金属片の混入が発生し、関係者の皆さまに多大な御心配と御迷惑をおかけしたことについて、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

なお、学校給食への異物混入の経緯は図3の通り。9月1日の件については、学校内での確認・連携・報告、さらには学校と共同調理場の情報共有に遅延が生じた結果、金属のようなものを沿えた報告書が共同調理場に届いたのが異物の混入事案発生翌日の10時50分頃であった。

9月7日の件については、東部共同調理場の下処理室内でネギの下処理中、調理員が長さ約12センチの針金のような金属片を発見したため除去、調理機器・器具の点検で破損等がないことを確認したため、給食全体への危険性はないと判断、ネギを不使用とし、調給食への混入事態は防いだ。

なお、西部共同調理場で作られたみそ汁から見つかった異物を民間の分析会社で分析したところ、ステンレス鋼材と考えられるという調査結果だったため、食材納入業者へ情報を提供した。

また、いずれの調理場においても、調理機器・器具を自主点検するとともに、食材納入業者へ調査を依頼した結果、いずれの調理場からも、混入経路は特定できなかった旨の報告を食材納入業者から受けた。

再発防止に向けての取り組みは、以下の通り。
 全ての小・中学校および共同調理場

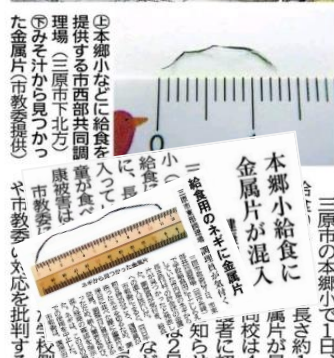
「学校給食における異物混入対応マニュアル(三原市教育委員会作成)」に基づく研修を今月中に完了するよう、15日に通知

食材の納入業者



異物混入対策の強化を求める文書を10日に発出
 また、学校給食納入物資に係る研修を各調理場で実施し、情報共有・混入経路の調査などを徹底させるなど、衛生管理の徹底を図りながら、安心・安全な学校

点検せず翌日も提供 市教委や学校 後手の対応 批判の声



給食の提供に努める。



東部共同調理場での事案発生に対する対応には理解をいたしました。今年発生した給食への異物混入事案の経緯(図4)を踏まえると、西部共同調理場についての「情報共有や混入経路の調査が遅れ申し訳ない」「研修などで基本を徹底させる」「ワンテンポずつの遅延」との担当部長の答弁は危機意識が低いと言わざるを得ませんので、再質問により認識をただしました。

問 異物混入対応マニュアルを基本通りに実行し、衛生管理・迅速かつ正確な情報共有を徹底することについて見解を

答 1日に発生した案件については、確認・連携・報告・情報共有が大きな課題であったと認識しており、関係者の皆さまには大変申し訳ないと考える。全ての小・中学校および共同調理場において改めてマニュアルを確認し、安全への意識の徹底を図る。

図2. 今年発生した異物混入(中国新聞)



本市が提供した給食への異物混入については、今年9月末までに限っても、3件の報道がありました。

私も行政をチェックする市議会議員としての役割を果たし、同様事案の根絶に邁進いたします。最後に、魅力・特色ある学校づくりを目指すための取り組みについて、今年4月に就任された計田教育長に質問しました。

問 コミュニティ・スクール、小中一貫校、義務教育学校の導入構想はあるのか

答 コミュニティ・スクールについては、現在、導入準備を進めているところであり、今後、総合教育会議において、市長部局と十分協議を行った上で、地域の皆さまの御理解をいただきながら、また所要の手段を踏まえ、早期導入を目指して取り組みたい。

また、小学校と中学校の9年間を見通した教育を行う小中一貫教育は、小・中で切れ目のない教育が実現できるような体制づくりを進めていくもので、その先に義務教育学校があると考えている。さらに、義務教育学校については、例えば六・三制を見直した四・

日付	できごと
2月 17日	●午後0時半ごろ 6年女子児童(本郷小)が配膳後に自分の麦ご飯の中にあつた金属片(長さ約5ミリ)を見つけた
19日	報道機関に発表
9月 1日	●午後0時50分ごろ 5年女子児童(本郷小)が給食の味噌汁から金属片を発見。担任教諭に報告 ●午後1時過ぎ 担任教諭が教頭に報告 ●午後8時ごろ 教頭が校長に電話で報告
2日	●午前8時半ごろ 校長たちが市西部共同調理場に電話で報告。調理場は報告書提出を指示 ●午前10時50分ごろ 教頭が報告書と金属片を調理場に提出。調理員が器具の点検を始める
3日	●正午前から午後 食材を納入した複数の業者に混入経路の確認を指示 ●午後4時40分ごろ 報道機関に発表
7日	●午前8時35分ごろ 東部共同調理場で学校給食用に下ごしらえしていた市内産のネギから、長さ約12センチの針金状の金属片が見つかった ●同日中 報道発表

図3. 今年発生した給食への異物混入事案の経緯

三・二制など、教育課程をより柔軟に活用できるもので、制度の内容について、今後さらに研究を進めたい。
問 教育長は現場主義を徹底するため、予告なしでフラットに学校を訪問されているとのことだが、学校訪問の実施状況とその効果は

答 学校訪問を行うに当たって、平たくという意味で、フラットに訪問していることから、「フラット訪問」と名づけ、私一人がアポイントを取らず訪問するスタイルを取っている。

就任からの5か月間で、市内小・中学校30校のうち、1校当たり平均して三、四回訪問した。

学校訪問では、ふだんの子どもの授業や遊びの様子、教室などの環境を自ら把握することに努めた。管理職である校長や教頭からは、現在、困っていること、悩んでいること、教育委員会への要望などを聞き、改善に向けて一歩でも前に進めばと思っている。今後は、他の教職員の思いもさらに聞いてみたい。

学校訪問の効果については、「困ったことがダイレクトに伝わり、すぐに対応してくれ感謝している」「本音のところでは相談ができる」「学校のモチベーションも上がった」など、教育現場からは概ね良い反応が届いている。

このように、学校現場の思いや考えを大切にして教育を進めるため、ふだんの姿や日常の様子が分かるスタイルでの訪問を今後も続け、学校現場と教育委員会との距離を近くすることで、信頼関係を強固にしたい。

問 不登校児童・生徒への対応状況とその成果は

答 不登校児童・生徒の増加に対して何としても歯止めをかけたという思いから、相談員の業務の見直しや組織的な体制の見直しを真っ先に行った。

具体的には、三原ふれあい教室の青少年指導相談員が学校に直接出向いて情報共有を行うなど、実動的な動きをできるように、また、市費で配置する相談員、県費で措置されるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他関係機関と学校、教育委員会など、児童・生徒を取り巻く大人たちの組織的な取組体制の構築を図った。

ふれあい教室の在籍児童・生徒数は、8月末時点で昨年度の8人から15人へと、ほぼ倍増している。

これは、学習機会の提供と社会的自立を支援するといった不登校児童・生徒の支援の在り方が、保護者・学校・関係機関および教育委員会による共通理解の上で進められている結果と思われる。

夏季休業明けの市内の欠席者の総数、8月末時点の不登校の児童・生徒数とも、昨年度と比べ減少しているが、これらは学校の一斉臨時休業を余儀なくされた児童・生徒が、その分、友達に会いたい、学校に行き

たいという思いを増し、学校へ気持ちが向いてきたことも要因であるかもしれないが、何より関係者が一丸となった組織的取組が功を奏していると考えます。今後も、子どもたちが誰しも教育を受けること、社会的自立をしていくことを、各機関が連携し、取り組みを進める。



学校と地域の皆さまの理解と協力が前提であるコミュニティ・スクールについては、メリットもあればデメリットもありますので、十分な協議を重ねる必要があるかと思えます。

また、教育長による学校現場へのフラット訪問は、教職員間の意思疎通が図られて風通しがよくなること、児童・生徒の学習や生活環境の実態を把握することに寄与し、不登校児童・生徒の減少につながると思えます。

さらに、就任されたばかりの岡田市長は「教育は、これからの社会を担う未来の担い手を育成する人づくりの基盤であり非常に重要。国のGIGAスクール構想により、小・中学校での学びの環境や学び方が変わる大切な局面であり、整備された環境を最大限に活用することが重要である。教育が三原市の強みと言えよう教育委員会と連携し、しっかりと取り組む」と決意表明されていますので、揺らぐことなく推進されることを強く要望し、私の質問を終えました。

Instagram



Facebook



Twitter



編集後記

本格的に寒くなるのを前に、新型コロナウイルスへの新規感染者数が増加傾向にあります。

昨シーズンまでの年末であれば、お声かけいただいた皆さまのもとに馳せ参じ、その年を振り返ったり、翌年の展望をお話ししたりする中でお声を頂戴し、私の議員活動の参考にさせていただいたり、関係機関にお声をお届けしたりしておりました。

しかしこの年末は、来年2月の神明市の中止が早々と発表されたことから分かるように人の集まる機会が減っているため、例年通りとはいかないようです。そこで皆さまには、【とくしげ政時】で検索していただいで、私が普段から情報発信のために使っている左上のSNS(インスタグラム・フェイスブック・ツイッター)からも、お声を頂ければと思います。

～ とくしげ政時 後援会入会の御案内 ～

■ 後援会規約

1. この会は「とくしげ政時後援会」と称します。
2. この会は、とくしげ政時の政治活動を支援し、合わせて、会員相互の親睦と協力を促進することを目的とします。
3. この会は目的達成のため、研修会・後援会・出版物の発行などの活動を行います。
4. この会に必要な経費は、会費・寄附金などの収入によってまかさないます。

■ 連絡先

電話番号 0848-62-5804 (ファックス兼)
e-mail masa.tokushige@gmail.com